

お鍬山 植物たより (H28. 2. 19)

この寒い中、いまでも展望台周辺のシキザクラは咲き続けています。中央アルプスは雪山です。今年の恵那山は雪が少ないようです。(展望台から見た山並み H26.2.12 掲載)



シキザクラと山並み (中央アルプス・恵那山)

お鍬山ではササ類はミヤコザサとネザサが自生しています。ミヤコザサは冬になると山地に自生するクマザサに似て葉が隈取りになります。お鍬山では南の谷筋にし



ミヤコザサ



ネザサ

か自生し

ていません。ネザサは各所に自生をしています。ネザサは分枝し3mにもなりますが、ミヤコザサは分枝もなく細くて1mにもなりません。笹川の堤防沿いにはネザサは繁茂していますが、ミヤコザサは自生していないようです。

樹木は春から夏にかけて枝を伸ばし、同時に冬芽の準備を始めます。芽は夏から秋、秋から冬へと季節と共に充実していき、その芽で冬の寒さと乾燥から生長点を守り春のために花や葉のもとを作ります。冬期に植物の名を知りたいければ、樹皮、樹形とともに冬芽が手掛かりになります。冬は樹木も花や実がないので散歩の楽しみが半減するのですが、葉痕とともに冬芽が人や動物の顔に似るなど、愉快的表情のものも多いので、散歩を楽しくもしてくれます。アカメガシワ(開花 H27.6.15 掲載)の冬芽はローソクの炎のような形をしています。シデコブシ(開花 H27.3.22 掲載)の冬芽は大きく白っぽい柔らかな毛でおおわれています。

ゴンズイ(開花 H27.9.13 掲載)の

枝先の冬芽は寒さを防ぐ対の赤い芽鱗になっています。



ゴンズイ



シデコブシ



アカメガシワ